

Glocal Tenri



1

月刊 グローカル天理 Monthly Bulletin Vol.18 No.1 January 2017

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
宗教の社会貢献活動、その評価は？
／高見宇造…………… 1
- ・ 天理教教理史断章 (112)
勢山文書③「おさしづ」の写し翻刻
／安井幹夫…………… 2
- ・ 『教祖伝』探究 (31)
閑話：米国の大統領選挙
／深谷忠一…………… 3
- ・ 「おふでさき」天理言語教学試論～「こと」
的世界観への未来像～ (33)
第4章 南方熊楠「萃点の思想」と「事
の学」⑧
／井上昭夫…………… 4
- ・ 日系移民の歴史にみる天理教の北米伝道
の様相 (1)
はじめに
／尾上貴行…………… 5
- ・ 「おふでさき」の標式的用法 (17)
動詞について②
／深谷耕治…………… 6
- ・ 「おさしづ」語句の探求 (21)
第2巻における刻限と「道」
／澤井治郎…………… 7
- ・ 新宗教のブラジル伝道 (45)
救済の多様性 PL 教団④
／山田政信…………… 8
- ・ ラインテと天理教のフランス布教 (9)
ラインテの歴史⑥
／藤原理人…………… 9
- ・ 地域福祉を拓く 一新たな寄付文化の創造
(25)
多様な活動資金
／渡辺一城…………… 10
- ・ 遺跡からのメッセージ (19)
イスラエルの遺跡調査⑤ 記憶の戦場、
聖地エルサレム
／桑原久男…………… 11
- ・ 現代宗教と女性 (12)
牧師夫人の信仰と生活
／金子珠理…………… 12
- ・ 平成 28 年度公開教学講座要旨：現代の事
情に対する天理教の思案 (3)
無縁社会一人とのつながりを再考する—
／澤井治郎…………… 13
- ・ English Summary…………… 14
- ・ おやさと研究所ニュース…………… 15
新連載執筆のねらい／連載執筆者の紹介
／第 295 回研究報告会 (澤井治郎)／第 296
回研究報告会 (岡田正彦)／第 297
回研究報告会 (尾上貴行)／『グロー
カル天理』年間購読のご案内／「教学と現
代」のご案内：「家族をめぐる諸問題」第
2 回／平成 28 年度「公開教学講座」の
ご案内

巻頭言

宗教の社会貢献活動、その評価は？

おやさと研究所長 高見宇造 Uzo Takami

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。さて私は、去年の暮れ、12月1日、「庭野平和財団」主催の第3回「宗教団体の社会貢献活動に関する調査—宗教団体の社会貢献活動は「無関心」から評価へ変わったか?—」の報告会に参加を致しました。これは同財団が4年に一度実施するもので、全国の20歳以上の男女3,950人を対象とし、調査結果を國學院大学の石井研士副学長が報告されました。

当日は多くの教団・宗派、また報道関係者の参加があり、関心の高さを感じました。東日本大震災では多くの宗教者が救援活動を行っていますが、その後、社会貢献活動がどのように評価されているかという関心が伏線にありました。

まず、「宗教団体の行っている社会貢献活動の認知」については「知っている」が42.5%と今回最も高く、初めて4割を超えました。前回の調査から8%上昇し、明らかに関心が高まっていることが分かります。また「知っている活動」(複数回答)については「学校などの教育機関の経営」36.1%、次いで「児童福祉事業(保育所、幼稚園、児童養護施設など)」31.6%、「医療機関の経営」20.5%、「災害時のボランティア活動」19.4%、「老人福祉事業(養護・特別養護老人ホームなど)」18.1%となっています。これらの活動は天理教が歴史的にも早くから取り組んできたものでもあります。

一方で「期待する社会貢献活動」(複数回答)は「平和の増進に関する活動」36.8%、次いで「災害時のボランティア活動」32.8%と続き、以下「医療や福祉に関する活動」27.8%、「環境問題への提言や取組み」19.3%となっています。一番期待する活動と答えた「平和の増進」は具体的には宗教者の平和サミットや平

和の祈りを意味しますが、こうした活動が、世界平和に貢献しているとする回答は41.6%と調査のたびごとに増加しています。世界的には21世紀に入り、宗教と関わる紛争が頻発し、テレビや新聞等で頻りに報道されていますが、回答者はこうした事件とは区別して宗教団体の平和活動を評価していることが分かります。

「もっと活発に行ってほしい」という評価が今回は23.9%と最も多く、「どちらでもかまわない」を僅かですが上回りました。「無関心」の態度が後退し、認知や評価が好転しつつあることが窺われます。

しかしその反面、「参加しても良い宗教団体の社会貢献活動」という質問については「参加したいと思う活動はない」という回答が41.2%を占めました。この数値は変わっていません。「認知」、「評価」の高まりと「参加」は別だという意識が見えてきます。そのなかでも「参加しても良い活動は」(複数回答)という問いには「災害時のボランティア活動」26.4%、「河川や海岸などの美化活動」19.2%、「駅や道路など地域の清掃活動」17.2%が上位にあります。毎年行われる全教一斉ひのきしんデーはそうした人たちのニーズの受け皿になるということです。

最後に、「宗教に関する一般的な質問」では「宗教は非常に大切だ」7.8%、「まあ大切だ」50.3%と増える一方で、「何か信仰を持っていますか」は21.2%と減少傾向にあり、「あなたは特定の宗教団体に入っていますか」では「入っている」が今回は8.7%と1割を切りました。報告書は「認知・評価の高まりは見られても、自覚的な信仰や教団への帰属へとつながらない状況が存在している」と結んでいます。これはどの教団も抱える課題であり、どう捉えるかが問われています。